昨今の土砂災害を考える ～土壌圏における水の動態～

Considering the recent landslide disasters in Japan -Movement of water in pedosphere-

*松木 梨南¹、久保 菜帆子¹、佐山 葉¹、辻 有夏¹、宮地 佑奈¹、小林 柚稀¹、高見 紗英¹、森川 達貴¹、山崎 稜太¹、楳田 優人¹

*Rina Matsuki¹, Nahoko Kubo¹, Yo Sayama¹, Arika Tsuji¹, Yuna Miyachi¹, Yuzuki Kobayashi¹, Sae Takami¹, Tatuki Morikawa¹, Ryota Yamasaki¹, Yuto Umeda¹

1. 京都府立嵯峨野高等学校

1. Kyoto Prefectural Sagano High School

森林がもつダム機能の大切さについて叫ばれて久しく、日本各地での土砂災害の報告が続いている。本校の研究において、シカ (*Cervidae*) の食害による下層植生の衰退が報告されており、植物による蒸発散の減少および土壌の流亡の可能性から、土壌圏の保水性が失われることが危惧されている。これは、直接的に降雨が岩石圏に達することを意味し、土砂災害に繋がると考えられる。本研究では、土壌断面調査、土壌三相分布、土壌透水性を評価し、土壌の動態特に保水能について評価した。土壌断面調査の結果、日本に見られる一般的な土壌が確認され、深さ60 cmまでが土壌圏と考えられた。また、植物のための適度な保水能を土壌がもっていることがわかった。一方で、透水性は比較的良好であり、一定量を超えた降雨により土壌圏以下の岩石圏に水が供給される可能性が示唆された。

キーワード：森林、土砂災害、土壌

Keywords: Forestry, Landslide Disasters, Soil